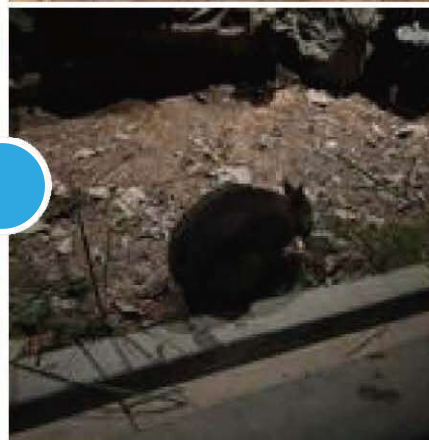


奄美・沖縄世界自然遺産地域交流事業に参加して

Amami Oshima

鹿児島県立古仁屋高等学校 1年 鼎 沙羅



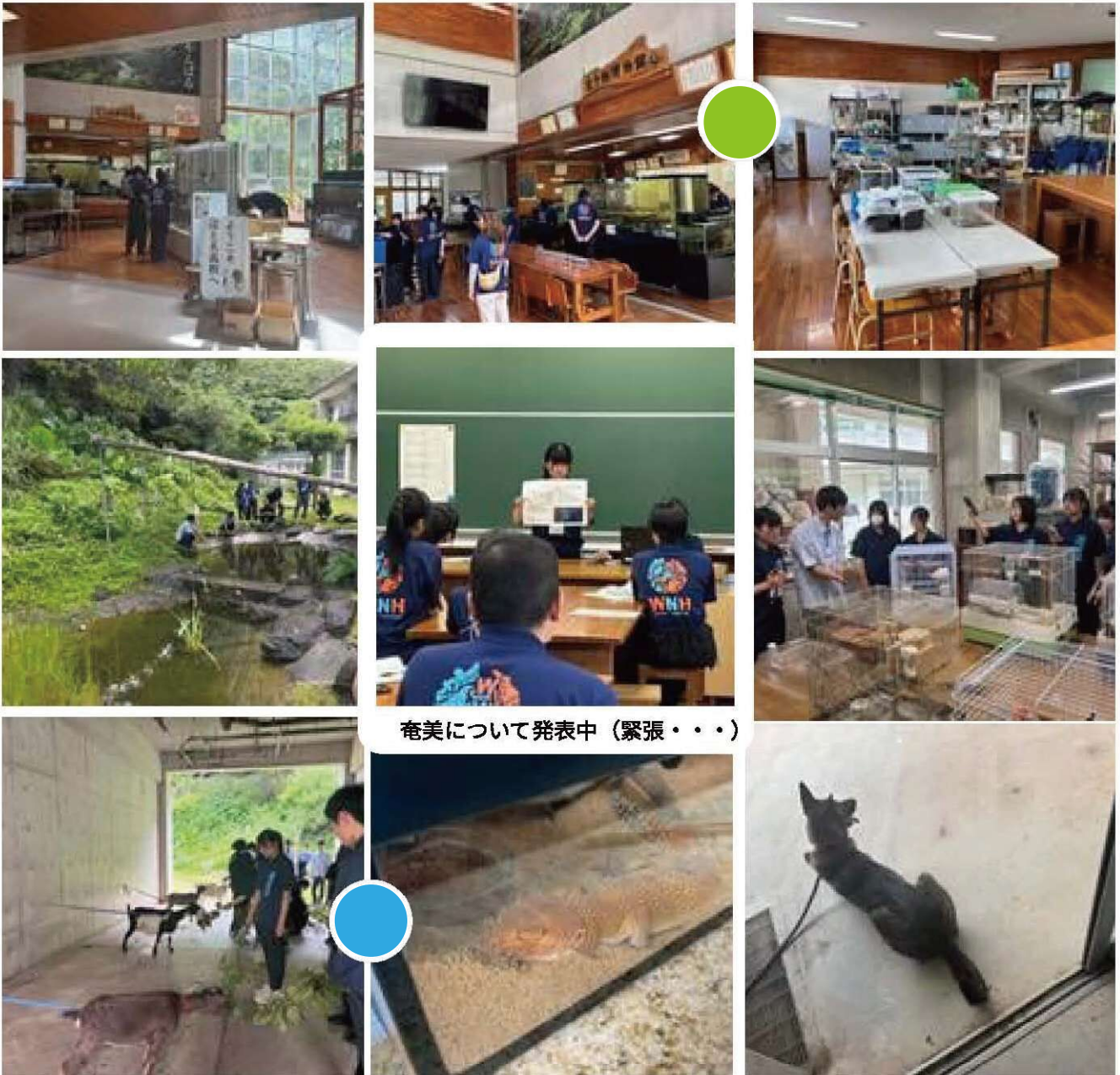
【奄美研修】 金作原原生林ツアー → 野生生物保護センター → QURUGURU

1. 金作原／私は今回初めて金作原を訪れました。写真でしか見たことない沢山のヒカゲヘゴを見た時、とても感動しました。実際に訪れて、キノボリトカゲや、オオタニワタリ、ヒメハブ、カエルなどを見ました。金作原を訪れて、改めて私は奄美の自然を知ることができました。

2. 野生生物保護センター／金作原で教えてもらった奄美の自然に関することや、自然遺産になったわけについてスライドを通して学習を深めました。その後、今ある課題を解決するにはどうしたらいいかグループ学習を行い、まとめ、発表しました。

3. QURUGURU／アマミノクロウサギの保護・治療、生態研究について学びました。また、奄美の自然とアマミノクロウサギとの共生について考えることができました。怪我をおったアマミノクロウサギの治療、研究をしていることや、昼にアマミノクロウサギを観察することができる仕組みに驚きました。オーバーツーリズムやロードキルの問題に取り組むできるすごい施設だなと感じました。

金作原で奄美の自然について学習し、改めて奄美の自然、生き物について考えて、野生生物保護センターで今の奄美にある問題について考えることができました。そして、その問題に対応できる施設のかたちとしてQURUGURUを知ることができました。



奄美について発表中（緊張・・・）

【沖縄研修1】 辺士名高校 ※私が沖縄研修で一番印象的だった研修先です。

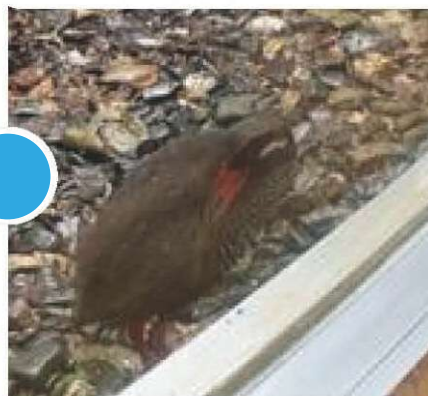
まず、辺士名高校サイエンス部から高校での活動内容について紹介を受けました。

辺士名高校は113人ほどの少人数高校で、学科に自然環境科がある高校です。辺士名高校の多くの生徒が入部しているサイエンス部の主な活動は、生き物の世話です。魚やヤギ、鳥、トカゲなどの学校内にある沢山の生き物をグループに分かれて世話していました。活動としてキャンプで生き物について調べたり、ボランティア活動も行っていました。日頃の生き物の世話を通して、もっと自分が学びたいことを見つけ、調べてポスターセッションにも出している事を知り、自分の調べたいことについての探究学習を沢山出来るのはとてもいいなと感じました。

その後、奄美チームの発表で、私は奄美について自分が調べた内容を紹介をしました。私の発表内容は奄美の海、山にいる動物、植物、昆虫などについてでした。奄美の固有種と沖縄にもいる生き物を写真付きで説明することで、辺士名高校の方に興味を持ってもらえるように工夫しました。他にも、私の通う高校の部活動で行っているマングローブや遺跡の研究についても、紹介することができました。発表中はとても緊張しましたが、興味を持って聞いてもらえたようで良かったです。



ヤンバルトカゲモドキ



【沖縄研修2】 ナイトハイク クイナの森

※私が特に印象に残っている体験です。

1. ナイトハイク/やんばるの森では沢山の生き物を見ることができました。特に印象に残ったのは、左側上から2番目の赤丸の中心にいる生き物です。私は尾しか見ることができませんでしたが、ガイドさんに「ヤンバルトカゲモドキ」ではないかと教えてもらいました。奄美に帰った後で調べてみると、ヤンバルトカゲモドキは新種で、やんばるの固有種でした(中央の写真)。ナイトハイクでやんばるの森の自然の豊かさを知ることができました。

2. クイナの森/奄美のQURUGURUのような施設で、ヤンバルクイナの保護、飼育、研究をする施設でした。この施設にいる多くのヤンバルクイナは施設生まれで、成長したら野生に戻すと話していました。クイナの森は、クイナを育てる事と研究が中心の施設だと思いました。生きているクイナを見ることができ、貴重な経験ができました。

【まとめ】奄美研修、沖縄研修を通して、私が生まれ育った奄美について改めて学ぶことができました。同じ高校生との交流、ガイドウォーク、施設見学を奄美研修→沖縄研修で奄美と沖縄の共通点と相違点にも気づくことができました。そして、自然界に生きる全ての生物が共存するためには、様々な問題を解決することが必要であると痛感しました。

私は世界自然遺産の島に生まれて、今回この研修を受け、奄美は沖縄に学ぶことが沢山あると思いました。今後は解決策を考え、行動に移す。これが私たち高校生が奄美を守っていく最善策だと思います。今回の交流事業の経験を高校の探究学習、将来に活かして、未来へつなげる一歩にしたいです。